

小平図書館友の会 会報31号



発行日 2013年11月15日
発行者 小平図書館友の会会長 剣持 香世

H P <http://www4.plala.or.jp/Nori/>
ブログ <http://yamaoji.cocolog-nifty.com/kitomonokai/>

目次

ごあんない	～本と図書館が好きなあなたへ～	1
講演会報告	今尾恵介さん講演会 5月18日	2
	川端秀明さん講演会 9月28日	2～3



今尾恵介さん



川端秀明さん



声に出して本を読む会発表会
10月11日～12日 内山恵司さん

特集	チャリティ古本市	3
	図解 チャリティ古本市	4～5 見開き
	新館長へのインタビュー	6
	図書館職員の方々との懇談会 8月21日	6
	第16回定期総会報告 10月6日	7



10月6日
定期総会

学習会報告	7～8
障がい者サービス学習会	7
YAを楽しむ会	8
図書館について学ぶ会	8
図書館協議会報告	8

ごあんない ～本と図書館が好きなあなたへ～

年会費 1000 円 メニューいっぱい お得な小平図書館友の会

ひとりでも楽しめる 交流の輪も広がる

- ◆読むもよし、聞くもよし・・・「声に出して本を読む会」
- ◆誰もが使える図書館をめざす・・・「障がい者サービス学習会・交流会」
- ◆少年少女に戻る?・・・「YAを楽しむ会」 ◆深く読み解く・・・「読書サークル・小平」
- ◆図書館の未来を考える・・・「図書館について学ぶ会」
- ◆あったあった！見つけた！・・・「チャリティ古本市」
- ◆なるほど～そうだったんだ～へえ～・・・「講演会」 ◆遠足気分・・・「文学散歩」
- ◆情報がいっぱい！・・・「毎月の交流紙」「年2回の会報」 など

あなたの入会大歓迎 !! 入会希望、問い合わせは上記連絡先へ

～ 講演会報告 ～

今尾恵介さん 講演会
～地図でたどる 多摩の鉄道、今むかし～

5月18日(土)中央図書館視聴覚室に於いて、地図や鉄道に詳しく、数多くの著作を出版されている今尾恵介さんの講演会を開催しました。

テーマは「地図でたどる 多摩の鉄道、今むかし」

*

明治22年に開通した甲武鉄道(現在の中央線の



前身)が多摩の鉄道の幕開け。その5年後には川越鉄道が小川に駅を設置。その後、多摩には次々と新線が登場し、昭和前期からの工業化、戦後の急速な宅地化を支えました。その120余年の歩みを、新旧地形図、時刻表など

の豊富な資料と手慣れたトークで、たっぷり解説してくださいました。

地元小平周辺の鉄道変遷がテーマだったことと、今尾さんの人気の反映でしょうか、定員80名の会場は満席になりました。

たいへん好評で、たくさんの感想が寄せられました。その中から、いくつか紹介します。

- ・多摩地域全体の歴史が聞けて勉強になった。
- ・内容が豊富で、人口の推移との関係、鉄道会社が観光目的に駅名を変えたことなど、興味深い内容だった。
- ・西武新宿線と池袋線が別会社であったことを、はじめて知った。知識が豊富なだけでなく語り口もお上手で時間が短く感じられた。
- ・面白かった。小平に住んで40年以上になるが、長い歳月が過ぎたことを感じた。
- ・とても有益。小平の古い地図をはじめて知った。
- ・地域の変遷と鉄道の発達が強結びついていることを地図を見ながら比較できたため、よく理解できた。
- ・年代を追って地図を見ることで歴史がわかった。
- ・郊外の人口増加に対応して路線が広がっていく様子がよくわかった。

川端秀明さん 講演会
～としょかんからはじまるコミュニティ～
被災地での図書館の役割

今年度2回目の講演会は、9月28日(土)中央図書館視聴覚室に於いて、一般社団法人「みんなのとしょかん」代表理事 川端秀明さん。

「みんなのとしょかん」プロジェクトは、東日本大震災の後、支援物資を届けるボランティア活動の中で被災地のコミュニティが寸断されている状況を見て、地域コミュニティ再生のために避難所や仮設住宅に住む人々が気兼ねなく集まることができる「としょかん」をつくる活動を始め、継続的に支援を続けています。

川端秀明さんの講演を聴いて

(会員 風間禎之助)

カルチャーショックとでも言うのでしょうか。「図書館」をこんなふう考えた川端さんに脱帽しました。また「図書館」を「としょかん」とした意味も理解したように思います。

*

東日本大震災の津波で多くの地域コミュニティが崩壊してしまいました。川端さんは、そんな状況を目の当たりにして、「住民参加の図書館を作れば新しいコミュニティが生まれるのではないか」と考えられたそうです。

*

公民館や公立図書館のように税金を投入して建てられた施設ではなく、お役所の規制が無い、誰でもふらっと立ち寄れて自由に出入りできる“敷居の低い”「としょかん」があれば、本を媒介にして人との会話が生まれ、絆も生まれて、新しいコミュニティ広場が形成されていくのでは……。

*

老若男女が自由に集える場所、本を読みたい人は読み、雑談したい人は雑談出来るスペース、地域住民の憩いの場所、そして新しいグループができて、行動力を生み出す場所、それが「としょかん」。

*

静かに本を読んだり勉強したりするだけの「図書館」のイメージから脱却し、コミュニティの場となるのが「みんなのとしょかん」。

当初は管理面での失敗もありましたが、試行錯誤しながら、「住民から声があがった地域」へ協力するという形をとり、建設費の一部を自己負担して貰うことで、住民に熱意と責任を持たず事に成功したようです。

まだ資金面や集本など課題も多いようですが、今後は被災地に限らず過疎地などにも運動を展開して行かれるそうです。ぜひ成功して欲しいと思いました。

*

ところで、「あれ！これって最初から『図書館友の会』を作るということかな？」……プロセスやマネジメント、方向性の違いはありますが、基本的には地域住民による自発的運営ということで、我々友の会と同じではないかと思ひ、意を強くしました。

また、この「としょかんプロジェクト」はアメリカで起こった、一日で「公園」を作ってしまう「カブーム！」と言う運動を手本にしたそうで、基礎工事など準備段階を別にして、地域住民総出で、建物から中の書棚作り、整理まで一日でやってしまうという話も驚きで、興味深いものでした。

(註) カブーム!とは、簡単に言うと、全米各地に公園を造ることで子供たちに遊び場を提供する非営利法人です。この団体名、日本人にはほとんど馴染みのない言葉ですが、もともと「Kaboom!」は英語の漫画で吹き出しなどに使われる「どっか〜ん!」という爆発音を意味します。

*

(編集者より) 参加された皆さんからも、たくさんのご感想をいただきました。これを機会に「みんなのとしょかん」プロジェクトのユニークな活動が広く知られることを願っています。

みんなのとしょかんプロジェクト ウェブサイト

<http://www.mintosho.org/>



みんなのとしょかん
プロジェクト
パンフレット

～特集 チャリティ古本市～

今号では、来年16回目を迎える友の会の名物行事「チャリティ古本市」を特集します。

例年の古本市——準備～開催～後片付け——の流れがわかる 図解ページ を作りました。

多数の会員、ボランティア、お手伝いの方々によって、この古本市が成り立っています。

*

また、チャリティ古本市で販売する本は、市民の皆さまからご寄付いただいたものです。

読み終えた本を、安価で、欲しい人の手に——というのが、この古本市の第一の目的です。

例年、販売日の前に寄付本受付日を設けています。ご不用の本は捨てずに、寄付していただけると嬉しいです。

本は捨てないで！

あなたの本を待っている人がいます！

—チャリティ古本市 過去10年の販売実績—

2013年 第15回	販売 30万1千円	7,600冊
2012年 第14回	販売 26万6千円	6,400冊
2011年 第13回	販売 28万5千円	7,300冊
2010年 第12回	販売 33万1千円	7,500冊
2009年 第11回	販売 30万9千円	7,300冊
2008年 第10回	販売 32万4千円	7,800冊
2007年 第9回	販売 28万2千円	7,100冊
2006年 第8回	販売 25万6千円	9,400冊
2005年 第7回	販売 21万1千円	5,400冊
2004年 第6回	販売 23万円	5,700冊
※第1回開催	1999年5月30日	

*

—収益の寄付先・物品寄贈先—

- ・小平市立図書館 (1999年から2013年まで)
- ・社会福祉協議会 (2005年まで)
- ・東日本大震災被災地図書館 (2011年から)

—小平市立図書館への物品寄贈例—

ブックトラック、マガジンラック、新聞架、ディスプレイラック (展示ケース)、スキャナ、デジタルカメラ、CDプレーヤーなど (図書館のご希望を伺って不足している物品を寄贈しています)



～新館長へのインタビュー～

今年4月から小平中央図書館長になられた湯沢瑞彦さんにお話を伺いました。

— 以前も図書館勤務があったそうですが…

20年前から7年間、喜平と中央で勤務しました。予算や電算システムの担当でしたが、この間に司書資格を取りました。司書の仕事であるレファレンスについて勉強し、専門司書のすごさに驚いた記憶があります。役所仕事の中でも図書館は比較的自由さがありやりがいのある職場だと思います。私はカウンター業務が好きなのですが、今はその立場にないので少し残念です（笑）。

— 小平の図書館でこれから実施したいことは？

利用者にとって使いやすい図書館となるよう、職員と常に話し合っています。

ミーティングのこともあれば、立ち話からヒントが出たりします。若い職員は活気があり、『やりたい』と思ったことを応援するようにしています。

市民からの「市長への手紙」や「図書館への意見箱」へ入ったご意見は、館長・地区館長の集まる会議の時に分析して検討しています。

近年インターネット予約が定着して本を受け取るとすぐ帰ってしまう方が多いです。本を探して書架をめぐる人が少なくなっているのが残念です。書架の配置や特別コーナーなど工夫の余地があると考えます。

またレファレンスのPRもしたいです。インターネット開放端末も全館揃いましたがまだ宣伝が足りないようです。

— 小平でも高齢者の数は増えています。

高齢者に対するサービスは？

最近障がい者とか高齢者とかを区別せずにそういう方々へのサービスはどうするのか考えています。予算や人員の確保が難しい現状ですが、大活字本を目立つ場所に配置する等、ボランティアの協力を得て、誰もが図書館に親しんでいただくための努力を続けています。また情報発信の方法はホームページに偏りがちですが紙の媒体でもまだ必要かと考えます。

— 小平ならではのサービスはありますか？

地味な作業であまり知られていませんが、返却された本を清掃しています。一冊一冊手でアルコール消毒をします。他の自治体でこの作業を行っているところは意外と少ないのです。

— 市民との協働で今後進めたいものは？

いろいろ可能性は有ると思いますが、仲町図書館の開館準備については、大学との連携を考えています。市内には大学がたくさんありますので、その専門性を生かした連携が将来的にできればと思っています。

— 川端秀明さんの講演をお聞きになって参考になったことはありますか？

図書館の持つ力や役目を考えさせられました。図書館を作ろうとするときの初心を思い出させてくれました。また彼の行動力に感心しました。

— 友の会に対して期待することは？

友の会とは長いお付き合いをさせていただいています。目指す方向は同じなのでこれからもともに歩んでいきたいと思っています。

— 最後に、館長ご自身のことをお聞かせください

本は昔から好きです。前は小平に住んでいたので中学生のころから図書館をよく利用していました。



文学系の中でもミステリーなどが好きですが、古書店をまわって吉田健一全集

を一冊ずつ買い集めたこともありました。

他の趣味は音楽（ジャズやボサノバ）を聞いたり映画を見たり、絵を見に行ったりすることです。

— 2013年10月7日 中央図書館に於いて —

（聞き手：剣持・入山）



～図書館職員の方々との懇談会～

8月21日、中央図書館視聴覚室で図書館職員と図書館友の会役員との懇談会が行われました。

4月から館長、係長の顔ぶれが替わり、顔合わせも兼ねて、ここ何年かできなかった話し合いの場を持つことができました。図書館側からは湯沢館長、関館長補佐兼庶務係長、小山資料係長、浅見調査係長、上田仲町図書館長が出席して下さり（鬼澤サービス係長は講習のため欠席）、友の会からは役員12名が参加しました。

図書館が、私たち利用者の声に真摯に向き合っていて聞いてくださり、大変有意義な懇談会になりました。（内田清子）

～第16回 定期総会報告～

10月6日(日)第16回の定期総会が開かれました。会場は小平市中央図書館視聴覚室。

9月末の会員数154名。委任状73通、出席者21名で総会が成立しました。司会 藤原さん、議長 島さん、書記 内田さん。

冒頭、島議長の声掛けにより、亡き初代会長の本間浩さんを偲んで一分間の黙祷を捧げました。

*

議案審議

1. 活動報告(剣持 他) / 図書館について学ぶ会(加藤)、障がい者サービス学習会(剣持)、声に出して本を読む会(雑崎)、YAを楽しむ会(重村)、読書サークル・小平(鵜飼)
2. 決算報告(白井)、監査報告(塚本)
3. 活動計画案(剣持)
4. 予算案(白井)
5. 図書館への寄贈品について(剣持)

すべて拍手で承認されました。

*

会員からの意見

◆ディジー図書の作成、対面朗読ボランティアの募集、育成によって読み手が増えるなど障がい者サービスが充実してきている。

◆仲町図書館もいよいよ上物が立ち始めるが、パブリックコメントで意見を出したものが「参考」から「検討」の方向へいくように願っている。

◆古本市の時、預かっていた本を運び出すのに、もっと男手があるとよい。会員も高齢化してきているので、知り合いの方、力持ちの方に声をかけてほしい。ボランティア(男子学生)募集など。

◆友の会の15年の歩みの小冊子ができたようだが、視覚障がい者が読めるよう音読用にデータ加工して送っていただけたらと思う。(当日配布した15周年年表)

*

終了後、館外奉仕室でちょっと豪華な懇親会が開かれました。22名参加。

湯沢館長も最後までいてくださり、一人一人自己紹介しながら和やかなひと時を過ごしました。

(内田清子)



～学習会報告～

障がい者サービス学習会

図書館の障がい者サービスは順調に進展しているようです。図書館から伺った資料を交えてお伝えします。

昨年は音訳者講習会への職員の派遣、音声機器の購入、音訳ボランティア及びディジー図書編集ボランティアの養成等、環境整備の年でした。

そして現在、録音図書が、カセットテープから利点の多いディジー図書(CD)に移行しつつあり、それに対応するためディジー図書編集ボランティア9名と、音訳ボランティア14名が資料作りをしているそうです。

対面朗読は中央図書館、大沼図書館に次いで小川西町図書館でも実施されたと聞き、実施場所の広がり期待しています。(名取公子)

声に出して本を読む会

10月11日(金)と12日(土)の二日間、小平駅前のシラヤ・アールスペースをお借りして発表会を開催しました。

たくさんのご来場、ありがとうございました。

—第8回「ことばの玉手箱」話題作をたのしむ—

11日 『闇溜りの花』(佐江衆一) 清水順子

『存在の美しい哀しみ』(小池真理子) 門坂徳子

12日 『雪明かり』(藤沢周平) 青木君代

『花の名前』(向田邦子) 矢部幸子

『老妓抄』(岡本かの子) 吉田淑江

両日とも、内山恵二さんによる楽しい解説がありました。(入山弘之)



YAを楽しむ会

これから大人の世界に入ろうとしている思春期の子ども達は、喜びも悲しみも強く感じ、コンプレックスや将来に対する不安で押しつぶされそうな時期にあります。YAの本はそんな彼らに想像力を与え自分以外の世界に気付かせ、苦しいのは自分だけではないと思わせてくれるのです。

私たち大人はむしろより大きな悩みを抱えて生きているのだけれど、この世には苦しみだけではなく喜びもあることを知っていて、YAの本を深く味わうことができます。これらの本が「子供専用」というのでは勿体ないくらい、大人も充分楽しめると感じて読んでいます。（鶴飼 恵）

- ◆ 3月『空色勾玉』『薄紅天女』『白鳥異伝』 荻原規子
- ◆ 4月『ヘリオット先生と動物たちの8つの物語』
ジョージ・ヘリオット／『サースキの笛がきこえる』
エロイズ・マッグロウ ◆ 5月『アラバマ物語』
ハーバー・リー／『フラワー・ベイビー』 アン・ファイン
- ◆ 6月『サラスの旅』シヴォーン・ダクト／『翼ひろげて』
ロビン・クライン ◆ 7月『ギャザリング・ブルー』
ロイス・ローリー／『スウィート・メモリーズ』
ナタリー・キンシー＝ワーノック ◆ 8月『アラバマ
物語』のDVDを観る／◆ 9月『おばあちゃんはハー
レーにのって』 ニーナ・ポーデン／『モッキンバード』
キャスリン・アースキン ◆ 10月『ギョロ目のジェラ
ルド』 アン・ファイン／『アーサー王と円卓の騎士』
ローズマリー・サトクリフ

読書サークル・小平

例会を隔月（奇数月）開催としてきましたが、最近では総選挙の日と重なったり司会者の都合が悪かったりで、少々間隔が開きました。

これから読書の秋を迎えて、もっと活発に活動する予定です。これまでの経過は次のとおり。

- ◆ 第19回 5月26日『おどろきの中国』
講談社新書橋爪大三郎×大澤真幸×宮台真司
知っているようで知らなかった事象に驚かされ
改めて中国の奥深い謎に興味を持ちました。
- ◆ 第20回 7月20日『知の逆転』
NHK出版新書 ジャレド・ダイヤモンド他 著
参院選挙投票日と重なり欠席者が多く、本題から
離れて、NPO 法人ハートピア主宰の長瀬さんを困
んで若者の社会参加を支援する活動の実態を聞き
対話の重要性を知らされました。

今回は11月17日開催予定、課題本は前回と同じく『知の逆転』です。（島 正夫）

図書館について学ぶ会

今年度は、以下の中からテーマを選ぶ予定です。

- ・図書館のPRについて（効果的で、利用者が
増え、利用しやすいPRとは？）
- ・テーマ展示について（タイムリーで、より
魅力的なテーマ展示とは？）
- ・10進分類による配架について（より探し
やすい配架とは？）

次回開催は11月18日の予定です。

～図書館協議会報告～

今年4月、図書館協議会公募委員に選任されました。既に3回の協議会が開催され、これでもう今年度予定の協議会は半分終わった事になります。

今年の協議会委員の特色として、新任の委員が多いといえそうです。新任の方もたくさん発言されますので、発言の機会を捉えるのが大変です。

再任の委員の方には聞き飽きた議論も多いので、私はお構いなしに発言するようにしています。事務局の出席者が多く殆どの質問に丁寧に答えて頂けるのも活発な意見の応酬に一役買っていると考えられます。

*

今年度、来年度を通して最大の課題は新仲町図書館・公民館の開設だと私は思っています。建物のデザインからして小さいながらも目を引く建造物です。小平市初の図書館・公民館機能を一体化した複合機能施設となります。新仲町図書館の蔵書にはICタグがつき、本の位置、状態が一目で分かるようになります。

小平市は中央館・分館がネットワークとして図書館機能を発揮するように運営されています。新仲町図書館にもICタグの無い本がリクエスト本の受け取りや返却の形で流入してきますので、単純にIC対応機能があればうまく図書館運営がなされるとは考えられません。公民館との複合機能施設としての運用、ICタグの使い勝手、利用者の蔵書へのアクセス等、使い勝手の良い便利な図書館となるよう図書館協議会の場で考え、発言していきたいと思っています。（塚本健男）